

当院入院中に血液から *Bacillus cereus* が分離された方の 試料・情報を用いた医学系研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年6月1日～2028年3月31日

〔研究課題〕消化管を侵入門戸とする *Bacillus cereus*(セレウス)血流感染症のリスク因子の検討

〔研究の目的〕 セレウスはヒトには食中毒の原因として知られますが、時に致死的な血流感染症を起こし、その制御は重要な課題です。環境中の菌が血管留置カテーテル操作時に血流内に侵入するとされ、手指衛生が重要視されてきました。一方、セレウスの血流感染症において腹痛などの消化器症状の合併や共通の食品の摂取歴が報告されており、経口摂取したセレウスが消化管内で増殖し、消化管粘膜を経て血流に侵入する経路が疑われます。また近年国内の医療機関から高病原性セレウスの検出が報告されますが、これらの菌株と血流感染の侵入門戸や病態との関連は明らかではありません。本研究ではセレウスによる血流感染症の疫学調査および菌株解析により、血流への侵入門戸の分布や病態との関連を明らかにすることを目的とします。

〔研究意義〕 セレウスの血流感染症の予防やモニタリングに関する知見が得られ、制御法の改善が期待できます。

〔対象・研究方法〕 帝京大学医学部附属溝口病院で2018年1月から2023年3月31日までの間に血液からセレウスが検出された症例を対象とします。診療録の情報(血管内留置カテーテルの有無、消化器症状の有無、画像所見、病理所見など)からセレウスの血流への侵入門戸を推定し、症例対照研究の方法で消化管を侵入門戸とするセレウスの血流感染症のリスク因子を探索します。また、菌株が保存されている場合は国立感染症研究所において菌株解析を行い、セレウスの菌株と病態との関連を探索します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院 (研究代表者 第四内科学講座 講師 小林彩香)

国立感染症研究所 (研究責任者 薬剤耐性研究センター第一室 室長 鈴木里和)

〔個人情報の取り扱い〕帝京大学医学部附属溝口病院内では個人情報を規定に基づき取り扱います。菌株を国立感染症研究所に送付する際は、個人が同定されないようにします。研究対象者などからの希望があれば、その方の診療録は研究に使用しません。研究終了後のデータ等は倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターで10年間保管の後に廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 小林 彩香 職名 講師
所属:帝京大学医学部附属溝口病院第四内科学講座
住所:神奈川県川崎市高津区二子5丁目1-1
TEL: 044-844-3333 (代表) [内線 3213]